

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会
地域共生型社会推進事業助成金

事業完了報告書（公開用）

1、概要

報告日	西暦 2022 年 6 月 10 日
報告者	木田桃子
助成団体名 (所属団体名)	一般社団法人 暮らし育て組
団体住所	〒 520-2511 滋賀 都道府県 蒲生郡竜王町林 3 5 8
団体電話番号	090 — 1516 — 4517
代表者 (助成対象者)	木田桃子
助成対象事業	地域ぐるみで働き・暮らし・子育てを育む
事業（助成）期間	2019 年 4 月 1 日 ~ 2022 年 3 月 31 日
事業費総額	1,519,679 円
助成金総額	506,000 円

※住所・電話番号等は団体のものを記載し、個人情報に関わることは記載しないでください。

次ページ以降に「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」を簡潔に記載してください。

注意事項

- ①共済会ホームページに掲載しますので**個人情報の掲載は禁止**します。
- ②「事業内容」、「事業成果」、「今後の課題など」は**合計5ページ以内**で作成してください。
- ③**写真の掲載は原則禁止**しますが、どうしても必要な場合は**最小限度**に留めてください。
- ④写真を掲載される場合は必ず**撮影対象の方に事前に了承**を頂くようお願いします。
- ⑤必ず Word ファイルのまま shigakyo@cello.ocn.ne.jp へメールにてお送りください。

2、事業内容

子育て中の親が集まり、地域と交流しながら、子育て・仕事・暮らしをお互いに支え合い、地域の中で生活していく仕組みを目指す本事業では、以下の三つの活動を通して、親が生き生きと働き・暮らし・子育てすることを応援してきた。

- ① 親の育成講座（家庭運営に自信とゆとりを持って取り組む為の講座）
- ② 親の自己実現の場（親自身の特技を生かしたチャレンジショップ）
- ③ 親同士や地域の方を交えた支え合い（見守り保育、コワーキングスペースなど）

①ではいえ組（家事に関する講座）、かまど組（食に関する講座）、おや日和（子育てに関する講座）の3種類の講座の開催をした。

いえ組では、すっきり暮らす、時間内に終える家事、台所まわりの片付け、時間内に終える家事、家族力アップの家事シェア、家計簿のある暮らしなどの講座を開催。参加者のほとんどは復帰を控える育休中のお母さんであり、パートナーとどのように家事や育児を分担するかで切実に悩んでおられる方が多かった。2021年などには参加者のニーズに応え、連続講座を秋に開催した。

かまど組では、2019年度に包丁研ぎ講座、いちご酵素ジュース作り、ブルーベリー酵素ジュース作り、ゆず酵素ジュース作りを開催。残念ながら、コロナの関係で2020年度、2021年度は思うように開催できなかった。

おや日和の講座は、ヨガをはじめに、抱っことおんぶ講座、一人で抱え込まない家事・育児のススメ、産前産後の過ごし方講座、おむつなし育児講座、帝王切開のお話会、子どもSDGs講座、お家ごはん講座、イヤイヤ期はやる気を生むチャンスなどと多岐にわたり、私たちが考える暮らしと子育てを育む内容をたくさんお届けすることができた。主に産前産後の方を対象に講座を開催することで、体や暮らしに変化が大きく負担がかかる時期にこそ仲間を作ったり、学んだりすることで、更なるステージアップを共に目指すものにした。1年目と2年目の講座は単発で行うものが多かったが、3年目は連続講座やフォローアップを意識して開催した。

②では、1年目はチャレンジショップとして知り合いや興味のある方にお声かけて出店依頼などをしていたが、利用して下さった方からの意見を聞いて、2年目からは「まがり・ぷらす」という名前で事業として活動ができた。土間スペース、畳スペース、お庭スペースと3つの場と利用者制度を整え、多くの方にご利用いただけるようになった。美容師やコーヒー屋さんの出店、手作り体験やパン作りの講座、子育てサークルなどの打ち合わせなど、さまざまな利用をしていただけた。2年目からは「ぷらすメンバー」と言って会員になっていただくことで、一緒に場づくりを行ったり、年に一度集いを開催して横のつながりを図る活動もできた。

③は1年目は助産師さんとお母さんをつなげることを目的に、助産師さんの相談所を無料で開催するところから始まった。参加して下さったお母さんたちで、2年目に「ことはぐ」という団体を立ち上げ、子どもとコトを育み、家事・育児・仕事・趣味などを少しずつシェアすることで、ゆとりと楽しみのある生活を目指す活動を開始した。「産前産後のよりみち」という助産師さんの無料相談とひろばを毎週金曜日にアウトレットで開催し始めた。しかし、それだけではなかなか参加者が集まりにくいことから、赤ちゃんの写真を撮れる季節のフォト背景をお母さんたちと作り、気軽に足を運べてゆっくりできる場を作っていた。3年目には参加者のお母さんからの自発的な動きで、田んぼを始め、自分達で食べるものを作る活動「たね組」も始まった。また、夕食のお惣菜作りの会「みんなの台所」も秋から始まり、わいわいごはんを作りながらレシピや時短テクニックを共有し、その場だけでなく家に帰ってからも役立つ情報を持ち帰れることで、とても充実した時間を共有できた。

3、事業成果

① 親の育成講座

目標：開催毎月3回＝年間36回

参加者毎回8名＝年間総勢288名

結果：1年目 開催28回、参加者125名

2年目 開催20回、参加者103名

3年目 開催20回、参加者55名

2021年度は前年度の反省を活かし、連続講座を意識して開催することで、おさらいとフォローアップもできることで、より参加者の暮らしに学びを落とし込める講座になったと考えている。参加者は少ないものの、参加してくださる方のリピート率やその後講師の方との個別レッスンや相談にも繋がっているため、よい学びを提供できていると自負している。かまど組ではコロナで開催を延期していたが、2021年などは参加者からのリクエストで開催もできたため、参加者さんとの関係構築や対面での講座の意義も改めて感じられた。

② 親の自己実現の場

目標：毎月2回＝年間24回の開催

結果：1年目 開催24回

2年目 開催28回

3年目 開催61回

自己実現の場として2020年度に「まがり・ぷらす」の制度とばを整えられたことは大きな成果だった。参加者もたくさん増え、同時に3つのイベントが開催される日もあった。様々なジャンルの方に参加していただけたこともとても良かった。また、ひだまり学舎を拠点に活動をしてくださる方も3名増え、法人の正会員として活動にも積極的に参加してくれるメンバーができたことも大きな成果だった。

③ 親同士や地域の方を交えた支え合い

目標：見守り保育など支援者の登録人数 15名

支え合いを必要として利用する親の登録人数 20名

結果：1年目 見守り0名、利用者0名

2年目 見守り0名、利用者5名

3年目 見守り3名、ことはぐ9名、たね組22名

初年度は思うように支え合いの場を作ることができなかったが、2年目からはことはぐと言う団体を作り、支え合える仲間づくりができた。3年目にはサポーターも3名増え、目標の数値には届かなかったものの、確実に前に進んでいることは成果としてあげたい。最初に思っていた方向とは少し異なる形にはなったが、メンバーの意見から田んぼ作りが始まり、1から食に関わる活動ができたのも大きな成果である。当初は産前産後の親を親同士や地域の方でサポートする仕組みを考えていたが、想像を超えて、たね組やみんなの台所の活動が始まり、想像以上に支え合いが生まれたことは本当に嬉しい成果だ。

4、今後の課題など

①の親の育成講座はどれも集客に課題が残る。2021年などには子育て情報誌「ママパスポート」にたくさん掲載していただいたが、反応があまりなかった。無料のものにはたくさん参加していただけたが、学びへの投資ができる親が少ないのか、もう少しリサーチが必要だと感じた。参加者のほとんどが復帰を控える育休中の方だったので、企業とのタイアップなどもしていけるかを検討している。

②まがり・ぷらすの制度もでき、利用者も増えたので、次に利用者同士のコミュニティと、利用者自身が告知と集客をして、お住まいの地域もしくはひだまり学舎で継続して活動していけるフォローをして行きたいと考えている。

③「みんなの台所」ではお姑さんと一緒に参加してくださっているご家族があり、年配者の知恵や気配りに助けられ、多世代交流のありがたさを感じている。小さな子どもを持つ親同士だとなかなか手が開かないことから、子どもも少し大きくなった親やもう一つ上の世代と一緒に活動ができるとよりスムーズに活動が進みそうだ。他の世代にも利益のある参加の方法を考え、サポートしていただける体制を整えて行きたい。